

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201286
法人名	社会福祉法人 日親会
事業所名	グループホーム ラ・ファミーユ
所在地	愛媛県今治市菊間町浜 1 4 5 3 番地 1
自己評価作成日	平成24年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日親会理念の下、グループホーム理念にあるように、『笑顔』の溢れるグループホームになるよう、職員一同協力・努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●毎月、ご家族への送付書類の中に、利用者の事業所での生活の様子と行事予定を記した一筆箋を同封されている。さらに、今月は、昨年一年間の行事写真を「一年間の笑顔」と題して、A4用紙にまとめ、ご家族に送付された。管理者は、ご家族の来訪時、利用者の普段の様子を報告して、「何でもあったら言ってください。言ってもらわないと変えられません」と、事業所サービスについて意見をいただけるよう働きかけておられる。事業所行事で行った「運動会」と兼ねて「家族会」を開催された際には、14～15名の参加があり、職員と話し合い、交流する機会にもなったようだ。
●利用者は、職員と敷地内を散歩したり、法人内の厨房に食事の容器を返しに行く等されている。桜や梅、ばら、フジ、菊等、季節の花を見にドライブに出かけたり、地域の「ふれあい祭り」に参加されたり、来島大橋がきれいにみられる場所に出かけて、橋を眺めながらお茶を楽しんで帰ることもある。花見時には、現地でご家族と合流して、ご家族も一緒にお花見を楽しめるよう企画された。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 安 永 英 和

評価完了日 平成24年12月28日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 施設の理念である『親愛』『共生』『向上』の下、グループホーム職員皆で決めた『笑顔』の理念とを心にとめ、職務に取り組んでいます。	
			(外部評価) 法人の理念とともに、事業所の「笑顔」という理念を職員がよく目にする掛け時計の横に掲示されている。管理者は、「利用者、ご家族、地域の方等、すべての人と笑顔で繋がるように」との思いで、日頃から職員に、「笑顔で頑張りましょう」と話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・地域の文化祭へ、利用者様の作品の出展等で参加しています。 ・地方祭で、御神輿や御供馬を招いたり、祭りの現地へ見物に行っています。 ・地元中学生の職場体験等で交流したり、地元小学校の運動会に招待をうけ参加交流をしています。	
			(外部評価) 地域の文化祭に、利用者と職員で作った折り紙や貼り絵の作品を出展され、文化祭当日、展示の様子を見に出かけられた。地域の中学校から2～3名の生徒が職場体験に来られて、利用者と一緒に歌を歌ったり、散歩する等して介護の仕事を経験されている。そのような体験等から、生徒は、介護・看護への進路を決めることにもつながっているようだ。又、中学校の授業の一環で、生徒の訪問があり、太鼓の演奏を披露してくれる等、利用者を楽しませてくれている。地域の小学校の運動会では、座席を用意してくださり、利用者は、子ども達を応援したり、競技に参加してともに楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議等で地域の代表の人達と話し合いをしています。運営推進会議等で地域の代表の人達と話し合いをしています。運営推進会議等で地域の代表の人達と話し合いをしています。	
			運営推進会議等で地域の代表の人達と話し合いをしています。運営推進会議等で地域の代表の人達と話し合いをしています。運営推進会議等で地域の代表の人達と話し合いをしています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 入居者様・家族様・地域代表・行政職員の皆様と事業所とで 意見交換を行い、意見や要望等をミーティングで話し合い、 改善すべき所があれば速やかに改善し、サービス向上にい かしています。	
			(外部評価) 会議には、地域やご家族代表の方、市の担当者が参加され ており、事業所の活動状況を報告して、出席者から意見や 要望をお聞きしているが、意見等はあまり出ないようである。 出席者の都合の良い時間を話し合い、現在は、17時30分か らの開催となっている。	会議を通じて、地域との関係を作ったり、又、事業所の理解 や協力が広がっていくよう、取り組みを工夫されてほしい。た とえば、利用者がメンバーと一緒に活動できるよう取り組まれ たり、時には、認知症や介護について一緒に勉強するような 機会も作ってみてはどうだろうか。さらに、ご家族の参加も積 極的に働きかけ、出席できなかった方には会議内容を分かり やすく報告して、意見や要望等も聞いてみてはどうだろう か。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進会議で情報をいただいたり、市役所の支所へ行っ た時などに色々と情報などをいただいています。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方は、「熱中症防止」や「イ ンフルエンザ予防」について等、パンフレットを持参してアド バイス等もくださる。パンフレットは、来訪者が自由に持ち帰 れるように玄関に置いておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 代表者及び全職員で、身体拘束をしないケアに取り組んでい ます。	
			(外部評価) 職員ミーティング時には、「ベッド柵の使い方」について、「帰 宅願望のあるかたのケアについて」等、身体拘束について 勉強会を行い、対応策を話し合っておられる。事業所の玄 関は、外側からは自動で開くが、中側から外に出る場合は、 職員が暗証番号を入力して開けるようになっている。利用者 が、さらに自由に暮らせる環境を目指して、事業所の玄関の あり方について、利用者の視点から職員で工夫や配慮でき ることはないか、話し合ってみる機会にされてはどうだろう か。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の虐待についてミーティング等で話し合いを行い、言葉が暴力にならないよう言葉使いや表情などをリーダーを中心に職員が互いに気を配ったり、入浴介助・トイレ介助時などにも身体の状態をチェックし異状があれば上司に報告するとともに、申し送りを徹底することにより防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修・講習等の予定があれば職員全員に回覧していますし、家族様へは必要に応じて説明等を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人様と家族様等に施設見学をしていただいてから、契約書及び重要事項に係るを説明をし、その後、本人様・ご家族様の要望だとか、不安・疑問点などについて十分に話し合うことにより理解・納得をしていただいています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話など、家族様等から管理者や職員・グループホーム自体への意見・苦情等があれば伝えていただき、即対処するようにしていますし、グループホーム玄関に意見箱を設置して直接伝えられない人の意見・苦情にも対処しています。 (外部評価) 毎月、ご家族への送付書類の中に、利用者の事業所での生活の様子と行事予定を記した一筆箋を同封されている。さらに、今月は、昨年一年間の行事写真を「一年間の笑顔」と題して、A4用紙にまとめ、ご家族に送付された。管理者は、ご家族の来訪時、利用者の普段の様子を報告して、「何でもあったら言ってください。言ってもらわないと変えられません」と、事業所サービスについて意見をいただけるよう働きかけておられる。事業所行事で行った「運動会」と兼ねて「家族会」を開催された際には、14～15名の参加があり、職員と話し合い、交流する機会にもなったようだ。	管理者は、ご家族の意見や要望をととても大切に考えておられ、ご家族の声をきっかけに事業所サービスの質の向上につなげていきたいと取り組んでおられる。家族会のあり方については、今後、「ご家族だけで遠慮なく話し合うような機会も作りたい」と話しておられた。今後、ご家族と一緒に活動するような機会を増やして、実際のサービスや環境面を見たり体験していただきながら、さらに具体的な意見や要望を引き出していかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを行い、その場で職員からの意見や提案が出来る機会を設けている。意見や提案のあった場合は、代表者や管理者等で検討して必要なものや活用可能なものに関しては運営面で反映させている。	
			(外部評価) 毎月の職員ミーティング時には、行事や業務について職員で話し合っ決めて、見直しをされている。職員が読んだ本の内容をケアに採り入れておられる事例では、「やさしいね」「すばらしいよ」「かっこいいね」等の「ほめことば」を利用者と一緒にとりご用紙に書き出し、居間に掲示して、職員は意識して使い、心地の良いコミュニケーションがとれるよう取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各自がそれぞれの課題、目標を立て、その進捗度を評価するとともに、行動評価表を基に評価を行い、その結果を昇給及び賞与等に反映させるようにしています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修・講習等の情報がはいると回覧し、希望者の勤務を参加できるよう調整したり、毎月のミーティング等で他の職員に研修等の説明を行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 代表者・管理者・職員レベルでの個人的な交流は行っていますが、事業所間での交流については実施出来ておらず、今後、取組んでいきたいと思っています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まずは、本人様・家族様等にホームへ来ていただき、話しをよく聴いてから説明することで不安等を解消していただいています。その後、実際にホームの見学(触れ合い)をしていただき、具体的に話し合いを進めていくことで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めているいます。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 上記の事を本人様・家族様等と一緒にいき、本人様と家族様の生活状況・問題点等を含め、不安・悩み・要望をよく聞いた上で、解決策・対応策を提案したりして家族様との信頼関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様や家族様の相談に応じて、当施設内の他の事業所サービスやグループ内で他の施設サービスを進める話なども提案して、本人様や家族様の条件に合わせた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お菓子作りや農作業などについて利用者様から指導をしてもらったり、外出時に花や虫などの名前を利用者様から教えてもらったり、行事の作業を手伝ってもらうなど、利用者様の得意分野について職員が利用者様を頼りにすることで發揮してもらうなど相互関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様には、利用者様の日々の様子やエピソードなどを一筆宣に書き込み、毎月の請求書と一緒に送付報告し、家族様にも協力してもらえ支援はおねがいして、利用者様を支えていく上で必要な情報を共有し、家族様と良い関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様・家族様等の希望があれば、近隣・友人等の顔馴染みとの電話での会話や面会も実施しています。外出行事やドライブや買い物などで、思い出の場所へ行ったり通らなかった時などに、思い出話などをしたりもしています。 (外部評価) 近所の方や友人が訪ねて来られた際には、居室や居間のテーブルでおしゃべりして過ごされている。運営推進会議のメンバーの方がお祭りの前に「お共馬」を連れて来てくださり、利用者はとても喜ばれたようだ。お正月には、2名の利用者の方がご自宅に泊まり、ご家族と一緒に過ごされた。干し柿を作った際には、作り慣れている利用者もおられ、包丁で皮をむいたり、紐に通す等して楽しく作業されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、出来るだけ居室からフロアに出いただき、他の利用者様や職員と過ごしていただくことで孤立しないように配慮しています。また、職員間で連絡ノート等で情報交換を行い、利用者様同士の関係を職員が把握できるようにすることで利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了後も、本人様や家族様からの相談にのったり、終了後も他の介護サービスへ紹介・仲介を行っています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人様の意思を尊重しつつ本人様の状況を考慮し、出来る限り本人様本位に検討し、対応しています。 (外部評価) 入浴中によく話をしてくださる方もおり、時には、お若いころの恋愛話をしてくださることもある。又、利用者様がご家族に「会いたい」と希望する時には、職員が電話して、ご家族にご本人の思いを伝えるようにされている。事業所では、アセスメント様式について、職員が情報の蓄積や共有が出来やすいように改善したいと考えておられる。又、「フェイスシートも年一回は更新していきたい」と話されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様についての聞き取り行うのですが、家族様にもよく分からないケースの時でも、出来る限り情報を収集し把握できるよう努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居後1ヶ月程は、利用者様自身の生活パターンや癖等を細かく記録し、その後も何か事を記録して、職員全員で現状の把握に努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			グループホームでの生活が、安全と安心が保障された利用者様主体の生活になるよう利用者様・家族様と職員の意見を取り入れ、利用者様に適した方法で介護できるよう介護計画を作成しています。	
			(外部評価)	
			利用者個々に担当職員が、ご家族や利用者の思いを聞き取り、担当職員とケアマネジャーとで話し合って、健康面、精神面、楽しみを考慮し介護計画を作成されている。入居当初は、1～3ヶ月、その後は、6ヶ月毎に見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の状況を介護記録に記載し、職員間で情報を共有し、話し合いを行い介護計画に反映しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			事業所内で対応出来ることと、隣接する同施設で対応出来ることに関しては、必要に応じて柔軟に対応しております。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			大きな行事の時に、民生委員・婦人会・地域の短大生・地域のボランティアグループの皆様が手伝いに来てくださったり、中学校の生徒さんが太鼓演奏やレクリエーション・職場体験等で来てくださっております。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 週1回の協力医療機関の医師による往診を行っています。基本的に病院に関しては、家族様の希望に合わせています。家族様が他の病院を希望する場合は、家族様対応で行ってもらっています。	
			(外部評価) 協力医が毎週往診に来られ、全員が診てもらっている。眼科や歯科の往診や送迎付きの歯科を利用する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者様の身体に異状が起こった場合、介護職員と看護職員とで、利用者様にとって適切な受診や看護を受けられるように支援を行っています。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、病院へ基本的な情報を提示し、入院先相談員・家族様・職員が連携し、情報交換・相談を重ねて、利用者様の退院後について皆で考えていくようにしています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期までのあり方についての対応は、指針を入居時に説明していて、受け入れ先が見つかるまで当施設で対応することで同意を得ており、家族や医療関係者と連帯が取れ、出来る限りの支援をしています。	
			(外部評価) 入居契約時、利用者が重度化した場合の対応について、たとえば入浴については、「入浴は、シャワー等の対応で湯船に入ることができないのですが、いいですか」と、具体的に事業所の支援内容を説明して希望を聞くようにされている。終末期を見据えて、法人内のケアハウスや特養等を予約するご家族がほとんどのようだ。利用者ご本人には、終末期のあり方について希望をお聞きすることはあまりなく、これまで、事業所で看取りを支援した事例はない。利用者主体のケアに取り組むことがグループホームの特長でもあり、利用者やご家族からの希望があれば、事業所で最期を過ごすこともできるような体制作りに向けても、取り組みをすすめていかれてはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 以前は、地元消防署員の方々に来ていただき、応急手当や心肺蘇生の研修会を行いました。最近施設での研修会を実施しておらず、職員の自主的参加の施設外研修にまかせています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は、定期的実施していますが、地域との協力体制は運営推進会議で課題にしますが、まだ協力体制まで出ていません。 (外部評価) 年2回、消防設備業者の立会いのもと、消防訓練を行っておられる。運営推進会議時、市からお借りした防災訓練用のDVDを見て、防災について話し合われたこともある。その際には、地域の方に災害時の協力体制についてお願いされたが、協力体制の整備にまでは至っていない。災害時のための備蓄は、法人全体で食料や水を3日分準備されている。さらに、事業所の立地条件等を踏まえた避難訓練の実施や、いざという時に助け合えるような地域との関係・体制作りへの取り組みが期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員皆、十分に注意を払って利用者様と接しています。ミーティング時にも利用者様に対する言葉かけ・言葉づかいや対応について話し合いも行っています。 (外部評価) 職員は、排泄のことについてお話する際には、利用者ご本人のそばで小声で話しかけるようにして、他利用者に聞こえないよう、気を付けておられる。トイレ介助時、ドアを開けたままになっているような場合には、職員が互いに閉めるようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は、利用者様の理解力に応じて会話するよう心掛け、その会話から本人の思いや希望を聴いたり汲んだりしながら対応していくようにしています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 全てが利用者様の希望通りにはいきませんが、出来る限り希望にそった日々の暮らしが出来るよう努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 理容・美容に関しては、利用者様や家族様の希望に沿って 対応としています。自分で出来る人は、起床時に洋服を選ん でもらったり、洗顔・整髪を自分でしていただき、自分で難し い利用者様の場合にはお手伝いさせていただいております。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けを、利用者様が自分で出来ることに 関しては、手伝ってもらったりして職員と一緒にを行っています。 外出行事では、飲食店に行き好きな物を注文して貰い昼 食をすることもあります。	
			(外部評価) 法人の栄養士が立てた献立の食事が、法人内の厨房から届くよう になっており、事業所で配膳をされている。職員も利用者と一緒に 同じものを食べながら介助等をされていた。時には、利用者の希望 で、法人からの食事を止めて、事業所でお好み焼きや焼きそば、 ラーメン等を手作りすることもある。調査訪問時には、食後、下膳す る利用者も見られた。事業所では、「夕食だけでも事業所で作ろう か」と話し合われたこともあるが、「食事作りをしないことで職員が利 用者に関わる時間が増えた」と実感することもある。実現には至ら なかったようだ。グループホームの支援の特徴も踏まえ、利用者一 人ひとりの力を活かした支援や、おいしく食事を食べられるような支 援の工夫について、時にはご家族等の意見や要望等もお聞きしな がら、取り組みをすすめてみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 隣接する施設の、給食業務提携している栄養士による献立 での料理を食べてもらっています。水分は食事・おやつ・入 浴・本人希望以外にも水分補給を行っています。一人ひと りの事情によって調整しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアを実施をしています。義歯は、夜間外して 水に浸け、定期的に洗浄剤に浸け置きをして殺菌・消毒をし ています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや状態に合ったトイレ誘導・介助を行い、失禁やトイレでの失敗を減らして紙パンツから布パンツへの変更を実施して、自立へ向かっての支援を行っています。	
			(外部評価) 入居当初、トイレでの排尿がなかなかできなかった方がおられたが、職員は、利用者が認識しているトイレの呼び名で誘導することで、トイレへスムーズに誘導できるようになり、自立に向け取り組みがすすんだような事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝のおやつを、牛乳系とヨーグルト系を毎日交互にしています。散歩をしてもらったり、シャワートイレを利用したり薬等での調整するなどの対応もしています。	
			(外部評価) 入浴の曜日は決まっていますが、入浴の順番についてはその都度職員が配慮して決めています。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、翌日に入浴するか清拭などで対応しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日は決まっていますが、入浴の順番についてはその都度職員が配慮して決めています。利用者の体調不良によって入浴出来ない場合は、翌日に入浴するか清拭などで対応しています。	
			(外部評価) 利用者は個々に、一日おきに入浴できるよう支援されている。脱衣場は、ヒーターで温度調節して、浴室と温度差がないように配慮されている。湯船のお湯は、一人ずつ新しく入れ替えておられ、入浴剤を好まれる方の希望にも応じて支援されている。立位がし難い方には、併設のデイサービスの浴室を使うことも可能のようである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり入眠時間が違うので、眠くなるまでフロア等ですごしていただいています。休息は、職員が昼夜逆転にならないように配慮しながら休息してもらっています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			看護師が利用者様全員の服薬を管理しており、各利用者のカルテのなかに新しい処方箋もファイルし、介護職員がいつでも確認できるようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			利用者様の生活歴や、現在興味がある事などを職員で話し合っ、限りはありますが、個々人でもやりたいことが事出来るように支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			希望時の状況にも寄るが、出来る限りは外出が出来るように心掛けています。	
			(外部評価)	
			利用者は、職員と敷地内を散歩したり、法人内の厨房に食事の容器を返しに行く等されている。桜や梅、ばら、フジ、菊等、季節の花を見にドライブに出かけたり、地域の「ふれあい祭り」に参加されたり、来島大橋がきれいにみられる場所に出かけて、橋を眺めながらお茶を楽しんで帰ることもある。花見時には、現地でご家族と合流して、ご家族も一緒にお花見を楽しめるよう企画された。	さらに、利用者個々の行きたい所や懐かしい場所、やってみたいこと等を探り、利用者個々が地域に生活を拡げていけるよう、支援に工夫を重ねていかれはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			小遣いを自分で持っている利用者様もいらっしゃいますが、殆どの利用者様の小遣いをグループホームで預かり、本人の必要に応じて家族様に了解をもらってから出すようにしています。最近減っていますが、外出で買い物に行った時など、小遣いから金額を定め自分で品物を選んで買い物をする事もありました。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			利用者様の希望があれば、電話での家族様等と会話してもらっています。また、利用者様の書かれた手紙等を、毎月家族様へ送っている封筒へ一緒に入れたりもしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関やフロアの壁などに、利用者様と職員とで作成した季節感溢れる展示品が掲示してあります。共用の空間は広くて多目的に使う事ができて、空調設備・床暖房を完備しています。	
			(外部評価) 玄関には、菊間中学生からいただいた瓦の素材で作った亀のオブジェが飾られていた。居間は広い造りで、昼食後には、職員と一緒に歩行練習する方もみられた。又、居間の畳の部屋で洗濯物を片付けたり、ソファでテレビをみながら過ごされる様子がみられた。居間の壁には、行事時の利用者の笑顔の写真や利用者と一緒に作った干支の飾り、文化祭に出展した折り紙や貼り絵の作品が飾られていた。菜園へは、居間から出入りできるようになっており、春菊や大根、ねぎ等が植えられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間は広く、自分の居室への出入りするのも自由なので、思い思いの場所で他の利用者様同士や職員と会話をしたり、テレビを見たり横になったりと自由に過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様・利用者様と職員とで話しをして、使い慣れた物を家から持って来ていただき、使い慣れた方向にベッドや持って来た物などを設置し、その後で職員と利用者様とで飾り付けなどを行い、利用者様が居心地よく過ごせるような工夫を行っています。	
			(外部評価) 各居室には、洗面台が備えてあり、歯ブラシやコップを置いておられた。ネクタイやシャツを複数持って来られており、毎朝、ご自分でネクタイを選び着替える方もいる。ご家族の写真やご自分の習字作品を飾っておられる方もみられた。花札が好きな方は、ベッドの上に花札に置いておられ、時々、職員と一緒に楽しめるようだ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様一人ひとりが、日常生活・レクリエーション・行事・生活リハビリ等を通して利用者様が出来る生活動作を失わないように支援しています。	